

WEST 政策発表会 (大阪府政策提言ツアー) 学生レポート

訪問日時: 2017年2月20日 午後3時から5時45分

参加者: WEST 大会優秀賞受賞チームほか(大阪大学・神戸大学)

WESTで優秀賞に選ばれたチームが、実際の政策を策定する担当者の前で政策を提案する場として、大阪府の協力の下で、大阪府への政策提言ツアーを実施した。



大阪府への政策提言ツアーは、政策企画部企画室計画課の協力を得て実施するもので、一昨年・昨年に引き続き3度目となる。本年度は、優秀賞を得たチームを含む4チームが参加し、政策企画部や副知事に加え、政策提言分野を所管する、大阪府の担当部局の政策立案担当者の前で、政策提言を行った。時間をかけて、課題、解決のための政策について、説得性を高めてきただけあって、政策立案担当者とも議論が出来るレベルになっていたと思われる。ただ、実施にあたり、見えていない利害関係者への配慮など、政策実施に関わる課題において新たな視点も指摘していただき、学生にとって、今後社会において社会問題を議論する準備としての良い経験になったと思われる。実施後のアンケートでは、参加学生ほぼ全員が満足との回答をした。以下に、学生の感想をまとめる。

学生 番号	今回のツアーに参加しての満足度<[5…大満足、4…「満足」、3…「普通」、2「やや不満足」、1「不満足」> 今回の大阪府への政策提言ツアーでの発表・議論から感じたこと、学んだこと:満足度評価の理由、発表・議論で得られたもの、本ツアーの意義など>。	
1	4	医療の実務者が多く非常に厳しい意見を多くいただいた。どの意見も大阪府では実施済みという主張であったためこれからは役に立つものは少なかった。現在行われている施策に関しては調査不足であった点は今後活かしたい。私たちの提言は大阪府の取組を参考にしたものも多く、大阪では、さらに新しい視点を提供する必要があった。
2	4	現場で政策を考えている方々の意見はとても鋭く、発表する側の我々も十分な準備をもって望まなければならないということを感じた。このような意見交換の機会をいただけたという点で満足度評価を高めにつけた。大阪府の職員の方々が「大阪ではこの政策はすでに行っています。現行施策の確認が甘いのではないですか」という指摘を何度もおられた。実施していない自治体も含めた国全体への提言である点をしっかりと伝えていくことが、今後必要であろう。
3	5	自分たちが考えた政策を、現場で活躍される方からの目線で実現可能であるか、課題に対してどれほどの効果が見込めそうかなど意見をいただき、論文執筆中には気づけなかったことが多くあることが分かった。このことから、論文を書くときには机の上だけの議論になり現状とかい離したものににならないよう、現場の方へのヒアリングなどが重要であると感じた。提言や議論を通して、府の職員の方が政策全般としてどのようなポイントを重視するのかなどが分かった。
4	5	大阪提言では多くの専門の方が参列して下さり、鋭く深い質問や指摘を頂き、大変有意義な時間だったと思う。特に医療の分野に関しては、リサーチの至らなかつた点にはじまり提言の方向性に関する知見(政策の持続的な効果への分析、個体群アプローチの困難性等)をたくさん得ることができた。来年度は大阪提言に備えて別途準備する等して、より有意義な応答を目指したい。
5	4	初めて実務にあたる、そして東京(国)とも違う自治体、つまり住民により近い立場で政策を行う方々に発表をする、ということでも緊張した。やはり手厳しい意見が多く、先輩がたが、かなり返答に苦労していた様子。データがあるからその研究をした、という点は大変痛い点だが実際事実であるし、分析の限界なのかなとも思うが、その分析も必要であるし、実務の面における議論と、分析結果を組み合わせると良い方向に向かう仕組みづくりが大事だと思った。
6	4	今回の政策提言ツアーでは、実際に政策を実施している方々の見地から、私たちが論文を執筆しているときに考えてきたこと以上のことを指摘していただき、非常に勉強になりました。そうして得られた貴重な意見を、また今後の論文執筆や他の活動のなかでうまく落とし込みながら、今回の経験を活かしていければと思います。満足度を4とさせていただいたのは、当日に実務者の方々から指摘してもらう点が多く、まだまだ勉強不足だったなという自分への戒めを込めてです。
7	4	実際に役所に行って、自分たちが考えた論文、そして政策を発表し、コメントをいただく機会は大変貴重であり、今後の後輩たちの論文執筆のモチベーション向上や、1年生がゼミを選ぶ1つのきっかけにもつながると考えています。受診率の分母や職域検診についての質問など自分たちが詰め切れなかったことが質問されたので、行政も同じ認識を抱いているのだな、と感じました。ヒアリングを重ねて論文を執筆してきたとは言え、やはり自分たちが机上で考えたことは、現場目線で見ると、まだまだ足りないことが多いと実感することができました。
8	4	実際に大阪府に方々の目の前で発表するのは昨年に続き2回目であるが、今回は去年と違い自分たちが実際に執筆に注力した論文を発表するため、少し緊張した。また、どのような質疑応答になるのかもなかなか予想がつかなかったが、実際の発表は時間の関係であまり質疑の時間がなく、残念だった。自分たちの研究に対し自分自身ちゃんと理解できていたんだなと知るいいきっかけになった。

学生番号	夜の交流会で学んだこと<夜の交流会での意見交換での感想と意義など。>
1	多くの方と交流することができ非常に有意義な時間であった。名刺もいくつかもらいうれしかった。たわいもない話が大部分ではあったが、様々な志を持っている方々と交流することができたのがよかった。来年も絶対に来るようにと言っていたくださうれしかった。こうやって学生に対しても真摯に対応して下さる方ばかりでとても楽しい時間を過ごせた。
2	参加していません。
3	政策提言について、昼の時間で聞くことができなかつた詳細な話や職員の方の意見を伺うことができた。また、政策提言の内容に限らず現在取り上げられている課題など(IR法案や万博誘致など)のお話を伺うことができ、とても勉強になった。
4	お忙しい中で懇親会にも出席して下さい、学生相手にもフランクに接して下さい。政策や当日の議論よりも、世間話が話題の中心となった。質疑応答において様々に指摘を下された方々がいらっしゃらなかったのが少し残念。
5	参加していません。
6	政策提言を発表させていただく場だけでなく、くだけた雰囲気、大阪府の方と打ち解けながら話す場も、また学生にとって貴重な機会となったと思います。交流会では、大阪府の副首都計画を進めている方の話など実務的な面から、人生の先輩としてのアドバイスなど、さまざまなことについてお話をさせていただいて、とても爽やかな楽しいものとなりました。
7	主に、大阪府の方が今どういう仕事をしているのかについて聞くことができました。公務員志望で地方上級も考えている学生には大変有意義な時間だと感じます。論文発表について軽くフィードバックをもらえることも良い機会だと思います。
8	大阪府の方と楽しく懇談できた。昨年に引き続き参加していただいた方も多く、昨年の話なども盛り上がった。今後の人生設計についてフランクに話せるいい機会だった。

学生 番号	大阪府提言ツアーを今後よりよくするためにはどういう工夫が必要だと思いますか？(改善点・提案など)
1	もっと私たちの実力を挙げていくのみだと思う。
2	今回のように他ゼミの優秀論文も一緒に発表するというのはとてもいい案だと思った。特に追加で望む点はありません。
3	他大学の参加があると、より幅広い分野について議論できるため他大学が参加することはいいと思う。今回は神戸大学の参加があったが大学の数が複数になると多様性があっていいと思う。
4	現状の行程に大変満足しているため、特にはありません。あえて挙げるすれば、大阪府は他自治体よりも先進的に施策を行っている場合が多く考えられるため、より大阪府の現状に沿った提言へと小幅修正を行って発表しても良いかもしれない。
5	ゼミの論文はどちらかというと全国に汎用性のあるものを書いている印象であるが、府の提言では、府では実際行われているものを提言する、なんてものもあったので、そのあたりはもう少し元の論文を改変したものを使ってもいいのかな、とも思った。
6	特にこれといったものは思いつきませんが、今回はやはりあまりにも3年生で都合がつかない人が多かったので、今後はもっと早い段階でみんなの予定を把握できる術が何かあればと思います。就活が関連することなので難しいかとは思いますが。
7	大阪府提言ツアーはもっと早い時期に行っても良い気がします。年内は無理かもしれませんが、1月中にやる事ができれば、就活と被らなくなると思います。できれば府知事にも発表を聞いていただけるとありがたいです。
8	知事に来てもらう。

学生 番号	今後、価値ある活動として、どのような発表・議論の場を希望しますか？
1	まだその問題に対して政策が十分になされていない自治体等、実際にその提言をする価値のあるところで発表をした方がいいと本当に思いました。
2	国の省庁と地方の自治体に発表できれば僕としては満足です。
3	大阪府や霞が関への提言ツアーは、実務者の方に政策提言を評価していただく貴重な機会のため来年度も参加したい。論文では国を対象とした提言が主になっているため、一部の提言が大阪にはあっていないように感じた。
4	論文テーマについて専門的に関わっている行政の方に発表・議論する機会がある現状が既に相当良い環境のように思えるので特に希望はありません。敷いていえば、赤井ゼミ以外の（例えば分科会賞を受賞した）研究会も巻き込めれば、より多角的な場になると思います。
5	このように、実務家から指摘をもらえる機会というのは本当に貴重だと思うので、このような場を続けていっていただきたいと思う。
6	もし可能であるとするならば、大阪府ではない別の自治体にお邪魔して提言させていただく機会も貴重なものとなると思います。私が今回携わった論文で取り扱った政策に関して、大阪府では先駆的な取り組みを行っていて、あまり提言内容がためにならなかったのかなと感じたので。
7	今は大阪府と、論文に関わる省庁で発表・議論の場があるが、論文の中で様々な関係者にヒアリングしたので、お礼参りも兼ねてそれらヒアリング先とも発表・議論の場があれば、おもしろいかもしれない。
8	他の自治体での発表

式次第(参考)

WEST 論文研究政策発表会（大学生との意見交換会）次第

日 時：平成 29 年 2 月 20 日（月）

場 所：府庁本館特別会議室（大）

○開会あいさつ (15:00)

○第 1 部 入選論文に関する意見交換会 (15:05～15:35)

※プレゼンテーション 20 分、意見交換 10 分

- ・大阪大学 赤井研究室 鈴木班 がん患者を減らすために
～がん検診受診率を用いた実証分析～

<休憩> (15:35～15:40)

○第 2 部 政策発表会 (15:40～17:45)

※プレゼンテーション 20 分、意見交換 20 分

【優秀賞受賞】

- ・大阪大学 赤井研究室 松本班 女性医師の活躍促進政策
～安定的な医療提供を目指して～

【優秀賞受賞】

- ・神戸大学 勇上研究室 藤坂班 地域活性化のための創業支援策

<休憩> (17:00～17:05)

【最優秀賞・政策提言賞受賞】

- ・大阪大学 赤井研究室 神田班 持続可能な水道事業を目指して
～民間活用と広域化による経営効率化～

○ 閉 会 (17:45)